

台風5号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

平成 29 年 8 月 4 日
福井県農業総合指導推進会議

- 台風に備えて、排水溝の掘り直しによる排水対策やハウス等の強風対策を徹底する。
- 水稲では、フェーンによる白穂の発生を防ぐため深水管理を行い、ナシでは、果実の落果防止のため、棚の「あおり止め」点検を行う。
- また、台風通過前後は、増水した水路への転落等の危険があるので、圃場の見まわりは控える。

1 共通事項

<用排水等の見まわり注意>

- ・河川や農業用水路への転落、ハウス損壊の巻添えになる危険があるので、圃場の見まわりは大雨や強風が止むまで控える。
- ・大雨がおさまった後でも、増水した水路等の危険な場所には近づかない。
- ・降雨により、圃場の畦畔や法面が崩壊しやすくなるので厳重に注意する。

<圃場の排水対策>

- ・大雨により圃場の冠水や浸水の恐れがあることから、排水溝を掘り直す。特に、これまで冠水や浸水したことのある圃場は、重点的に排水対策を実施する。

<ハウス等>

- ・強風に備え、破損している箇所は早急に修繕する。
- ・フィルムの取付金具やハウスバンドがしっかり固定されていることを確認する。
- ・風が強くなってきたら天窓やサイドビニール、入口を閉める。
- ・パイプの埋め込みが浅くなっている場合は、土を入れて締め固める。特に新設ハウスは埋め込みが弱いので注意する。
- ・換気扇がある場合は、換気扇を稼働させてハウス内を負圧にしておく。
- ・周囲に防風ネットが設置してある場合は、ネットが飛ばされたりしないように点検、補強を行う。風により飛ばされやすいものは片づけておく。

<通過後>

- ・ハウス等の施設は、速やかに点検を行い、必要に応じて補修する。
- ・冠水した場合は、排水ポンプや溝切り等により、できる限り速やかに排水す

る。

- ・マルチ栽培をしている畝が冠水した場合は、マルチ内が水分過多となりやすいので、マルチを除去したり、畝肩までめくり上げるなどして土を乾かす。
- ・風が止んだら、ハウス等のサイドビニールの巻き上げや天窓の開放などにより換気を十分に行い適切な温度管理に努める。
- ・風による損傷で病害が発生しやすくなっているので、農薬使用基準に従い殺菌剤を散布する。

2 水稲

- ・台風通過後に速やかに排水できるよう準備する。特に倒伏が懸念される圃場では、排水溝を切るなど排水条件を良くする。
- ・出穂まもないコシヒカリやあきさかり等では、フェーンにより稲の水分がうばわれ白穂が発生する場合がありますので、深水管理を行う。

<通過後>

- ・台風の影響がなくなったら速やかに落水し、その後は間断通水とする。

3 大豆・ソバ

- ・大豆では、枕地の培土が排水を妨げることがあるので、溝を切り通す。
- ・ソバでは、地表水の停滞や過湿により発芽不良・初期生育不良となり減収するので、排水対策を徹底する。

4 野菜(露地)

- ・ネギでは、土寄せ等を行い、株のゆれを軽減する。
- ・ピーマン、ナスでは、収穫可能なものは収穫しておく。
- ・不良果や不良な茎葉はとり除き、樹の負担を少なくする。
- ・キャベツ、ブロッコリーでは、浸水により根腐れを起こすので、排水溝を手直しし、浸水した場合は、24時間以内の排水を徹底する。

<通過後>

- ・果菜類で支柱等が倒れているものは速やかに引き起こす。
- ・草勢を回復するため、液肥の葉面散布や追肥を行う。
- ・根元が露出している場合は土寄せを行う。

5 果樹

- ・幼木や根の浅い樹種は、強風による倒木・落果を防止するために主幹にそわせて支柱を立て、結束する。
- ・収穫可能なものは収穫しておく。

<ナシ>

- ・ 棚栽培では、風による棚面の動揺を防ぐため、棚の「あおり止め」などの点検を行うとともに、枝梢を棚に誘引・結束しておく。
- ・ 防鳥・防蛾ネットは、固定紐のゆるみをなくすとともに、ネットの外側からビニールバンドで固定する等して風であおられるのを防ぐ。固定は必ずアンカ一部にする。台風が接近し、ネットおよび棚の強度以上の強風が予想される場合はネットをはずす。
- ・ 圃場が乾燥している場合は、風台風に備え十分にかん水しておく。
- ・ 大雨の場合は、果実品質を維持するために排水対策を施し土壤乾燥に努める。

<通過後>

- ・ 倒木した場合は速やかに立て直し、支柱等にくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。折れた場合は切り戻す。いずれの場合も癒合剤を塗布する。

6 花き

- ・ 旧盆用のものが開花期を迎えているので、収穫可能なものは、収穫しておく。
- ・ フラワーネット支柱はしっかり打ち直し、中間にタルキグイを増やして補強する。
- ・ 畝の横風に対しては1、2本おきに隣りの畝の支柱どうしをハウスバンドなどで連結して固定する。
- ・ ネットは花の先端から3分の1程度下がったところで支持する。

<通過後>

- ・ 強風により傾いた場合は、そのまま放置しておくのと曲がって元に戻らなくなるため、速やかに起こす。

7 畜産

- ・ 畜舎、堆肥舎等や保管飼料への雨水の侵入を防ぐ。
- ・ 放牧地においては、牧柵等の破損、土砂崩れ等の発生する危険がある場合は、速やかに牛を牛舎に引き上げる。

<通過後>

- ・ 畜舎等が浸水した場合は、すぐに排水し、疾病予防のため洗浄・消毒し、乾燥に努める。
- ・ 牧草地で侵食や土砂流入が発生した場合は、早急に現状復帰を図り、生産力回復の必要があれば牧草の播種等を行う。